



市民活動情報発信コーナー 市民力×まちづくり

このコーナーでは、「市民参加型まちづくり1%システム」を活用して実施された事業をはじめ、市内で行われている市民活動を紹介していきます。

もったいない食育学習出前講座

- ▽実施団体 もったいないがるの会
- ▽事業内容 保育園児を対象に、段ボールコンポストで生ごみを堆肥にしたり、廃食用油をローソクにしたりして、地球温暖化について学ぶ出前講座を実施しました。ごみを減らすことは、地球温暖化から地球を守ることにつながると、園児や園児の家族に伝えることができました。
- ▽事業費／補助金額 13万5,656円／9万6,000円



指定無形民俗文化財 鳥井野獅子踊保存活性事業

- ▽実施団体 鳥井野獅子踊保存会
- ▽事業内容 後継者が不足している獅子踊りを後世に継承していくために、獅子踊りの歴史や踊り方、演奏方法などの情報をまとめた冊子を作成しました。また、講演やワークショップを行い、これからのあるべき姿やどのように継承していくのかを、地域住民や近隣の獅子踊り保存会のメンバーと考える機会を創出しました。地域の皆さんに獅子踊りという伝統文化や魅力について理解を深めてもらうことができました。
- ▽事業費／補助金額 74万7,570円／50万円





**障がい者就労支援アンテナショップ
「hug work (ハグワーク)」オープン**

障がい者および障がい者雇用への理解を深めるため、市内の障がい者就労支援施設9カ所で製造した商品を日替わりで販売する「アンテナショップ」を市役所本庁舎内に開設します。丹精を込めて作った魅力ある商品を取り揃えていますので、ぜひおいでください。

△ところ 市役所前川新館1階総合案内付近

△営業日 原則、毎週火・木曜日（祝日、年末年始を除く）の午前10時～午後3時（商品が売り切れ次第終了〈開設時間は準備、撤収を含む〉）

△販売商品（予定） 各事業所で製造・加工した農作物、パン、焼き菓子、木工品など

■問い合わせ先 福祉政策課（☎ 40・7112）

Vol. 5 弘前っ子の作品

平成28年度弘前地区小・中学校美術展で受賞した作品を広報ひろさきで8回に分けて紹介します。子どもたちの夢、楽しい思い出、豊かな心をご覧ください。

■問い合わせ先 教育センター（☎ 26・4803）

タイトル

おいしいぶた汁

石岡 海暉人さん
(青柳小)

コメント
炊事遠足で、みんなと協力して、おいしいぶた汁を作りました。

弘前城石垣修理

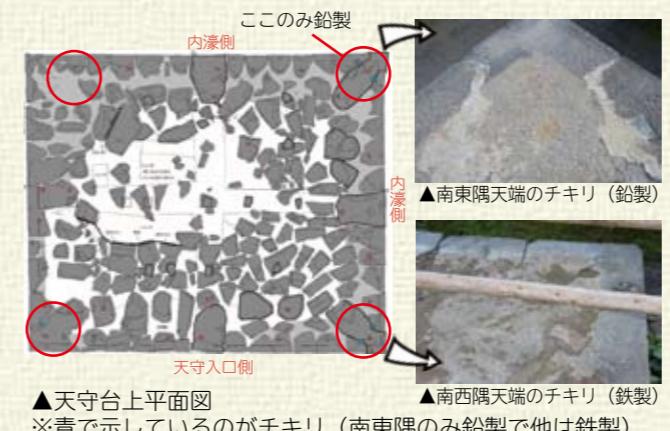
第11回～石垣の解体調査～



4月9日に弘前城跡本丸石垣解体工事がスタートして、半年が過ぎようとしています。

現在工事は、天守台部分と本丸東側平場部分を並行して解体しており、解体した石の数は764個で、段で数えると、天守台は西側を残し最大で7段目まで、本丸東側平場は北側の一部を残し最大で3段目まで解体しています（9月30日現在）。これまでの解体工事に伴う調査では、イカ型の隅石、地鎮遺構、刻字石（銘文の刻まれた石）など多くの発見がありました。

イカ型の隅石は、天守台天端の四つ角に設置されており、両側の石をつなぐチキリと呼ばれる鉄や鉛製の金具により固定されていました。また、天端の隅石とその下の隅石は、ダボと呼ばれる鉛製の棒で繋がっている部分も確認されました。このような石垣は他に例がなく、弘前城独特の形と評価されています。



地鎮遺構は、天守台上面に敷き詰められていた石を撤去した際に見つかりました。天守台中央西寄りにあり、四角いコンクリート枠の中に蓋付きの銅製容器が置かれ、四隅には同じく銅製の撇（けつ）が立て掛けられていました。容器の表面には墨書で「八円 五円 銅八円 白銅七円」と書かれ、中にはとっくり2本、おちょこ2個、木札（笏〈しゃく〉）1本が入っていました。とっくりやおちょこに描かれる絵柄が銅版転写技法で描かれていたため、明治以降のものと推定されます。これは大正4年の石垣修理工事で行った地鎮祭の痕跡であると考えられます。

※弘前城本丸石垣修理事業について、詳しくは下記URLをご覧ください。
<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/ishigaki/index.html>

■問い合わせ先 公園緑地課弘前城整備活用推進室（弘前公園緑の相談所内、☎ 33・8739）



▲地鎮遺構検出箇所



▲容器内出土状況

▲地鎮遺構出土遺物

刻字石については、天守台南東隅のイカ型隅石の下から確認されました。刻字の内容は、「大正四年十月一日 爲 御即位大典 紀念修築之當事者 弘前市長 長尾義連（ながお よしつら）」と刻まれています。これは、地鎮遺構と同じく、大正4年の石垣修理工事の記念と考えられます。この石のさらに下からは、工事業者や石工の名前の刻まれた刻字石も確認されています。

これからの石垣解体工事では、調査成果から分かった文化財としての石垣の価値や、弘前城独特の技術を生かしつつ、石垣のはらみの原因を改善し、崩れない石垣の復元を目指していきます。

